

# コミュニティ福島における取組

福島県環境創造センター 柳沼 平

福島県環境創造センター交流棟「コミュニティ福島」は、放射線に関する正確な理解を促進し、また、原子力災害を経験した福島県の現状を伝えることを目的とした展示室等を備えた施設として、平成28年7月21日にオープンしている。

「コミュニティ福島」における役割として、情報発信、人材育成、団体交流の場の提供などを担っているところであり、以下では県内小学校における放射線教育への支援についての取組について紹介する。

## 福島県内小学校における原子力災害後の状況

- 放射線や原子力災害を受けた福島の状態についての理解不足
- 根強く残る福島への風評 不当な差別 (いじめ問題など)  
これらは、福島で生まれ育つ子どもたちが今後も背負う問題
- 放射線や福島の状態をきちんと理解し、自らの言葉で伝えることが必要

## 放射線や福島の状態について、子どもたちが主体的に学べる施設 コミュニティ福島 を整備



コミュニティ福島 外観



原子力災害について学ぶエリア



放射線について学ぶエリア



ドームシアター外観(左上)

## 子どもたちをターゲットにしたコミュニティ福島における学習

子どもたちが主体的に学べるように、

- 体験型の展示で、子どもたちの興味を喚起
- 対話を重視したハードとソフトで、コミュニケーション促進

### 展示での学習内容

- 原子力災害の経過やその影響、災害対応
- 放射線の基礎知識
- 再生可能エネルギーの概要

### 実験講座の内容

- 身の周りの放射線の測定
- 霧箱で放射線の性質の観察
- 再生可能エネルギーによる発電体験



身体を動かして



タブレットPCで



観察する



360°の映像・音響



覗いてみよう



運営スタッフと



展示を活用して



実践講座で

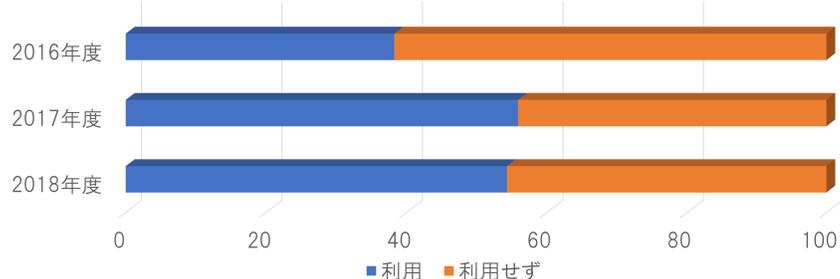
## 小学校によるコミュニティ福島利用状況

### 福島県内小学校の利用実績（学校行事での利用）

- 2016年度 185校 8,436人 ※ 8月からの実績
- 2017年度 267校 11,484人
- 2018年度 253校 11,113人

※ 2018年度の利用割合は、福島県内小学校全体の54.3%

福島県内の小学校における放射線教育の一環で利用

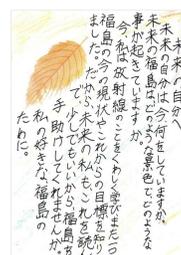
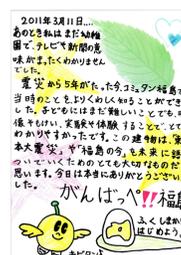


福島県内小学校のコミュニティ福島利用割合 (%)

### 引率教諭の声

- 普段、原発事故や放射線のことを考えることもあまりない子どもたちですが、改めて自分の身近な問題としてじっくりと考えることができました。
- 放射線ラボでは、難しい内容を身近なものに例えたり、ゲームを通して学べたり、様々な工夫がされており楽しく学ぶことができました。

### 子どもたちのメッセージ

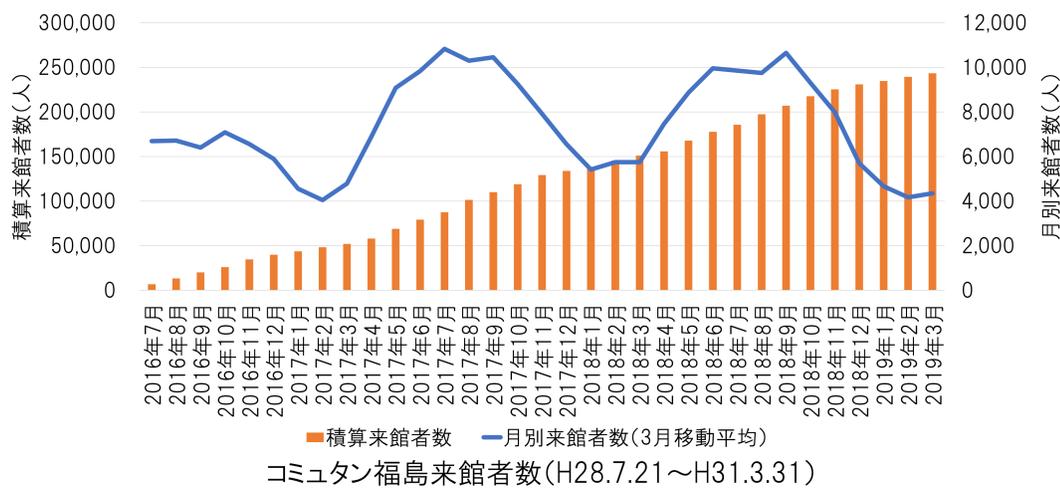


福島県環境創造センター交流棟「コミュタン福島」は、放射線に関する正確な理解を促進し、また、原子力災害を経験した福島県の現状を伝えることを目的とした展示室等を備えた施設として、平成28年7月21日にオープンしている。「コミュタン福島」では、これまでに多くの来館者を受け入れており、以下ではその状況について報告する。

## コミュタン福島 来館者数

平成28年7月21日から平成31年3月31日までの総来館者数は243,456人となった。オープン後、初めて年度を通じて運営した平成29年度における総来館者数は99,139人、平成30年度は92,348人であり、いずれの年度も、目標である年間総来館数の80,000人を達成した。

来館者数には時期によるばらつきが見られ、学校団体等の来館が多い5月、6月及び9月から11月並びにイベントを多く開催している7月及び8月については来場者が多く、冬期については来場者が少ない傾向となっている。



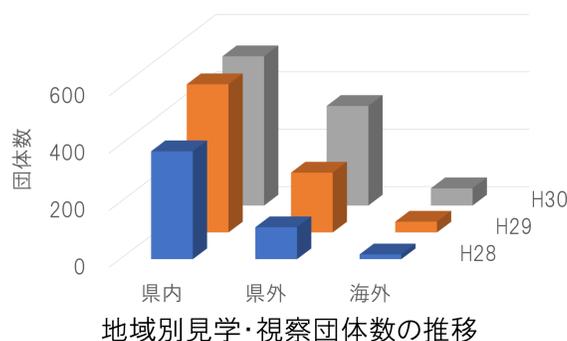
来館20万人達成記念セレモニー

## 学校団体・一般団体等の見学・視察

学校団体見学及び一般団体等視察の実績は、平成28年度が508団体13,866人、平成29年度が764団体23,988人、平成30年度が921団体25,616人であり、増加傾向が顕著である。

### 【県内・県外・海外別】

見学・視察団体のうち県外団体の占める割合の増加傾向が顕著である。これは、教育旅行誘致キャラバンによる県外教育委員会、学校、旅行会社へのPRや県外イベントでのアウトリーチ活動等による成果であると考えられ、また、旅行会社企画のツアーにおける訪問先としての継続的な利用も要因の一つである。



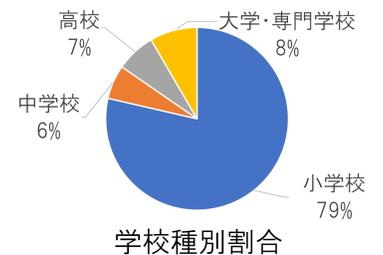
ミスインターナショナル視察

### 【学校種別割合】

学校団体の内、小学校団体の占める割合が79%であり非常に大きくなっている。これは、コミュタン福島展示室は小学校高学年をターゲットとした設計であること及び小学校団体来館に対する来館支援策（貸切バス代補助）によるものと考えられる。

小学校団体学年別来館実績

種別	小学校	中学校	高校	大学 専門学校	その他 団体
H28	195	16	7	12	278
H29	274	19	25	34	412
H30	262	21	33	32	573



## 県外教育委員会職員研修

原子力災害を受けて県外に避難している小学校児童へのいじめ問題等への対応のため、福島県の現状を理解することを目的とし、横浜市と東京都の教育委員会が教職員を対象とした研修会をコミュタン福島において実施した。研修会では、コミュタン福島展示や福島県教育庁による県内の放射線教育の現状についての講義により、福島県の現状理解を深めた。

### 【横浜市教育委員会】

横浜市への避難児童へのいじめ問題を受けて実施

平成29年7月14日 参加者 77名

平成30年6月 8日 参加者 30名

### 【東京都教育委員会】

平成29年度（7月から11月までに計 8回実施）参加者 238名

平成30年度（7月から11月までに計10回実施）参加者 約380名